

すいたクールアースウィーク in 高槻クロスパル

市民・事業者・行政の3者協働組織である「アジェンダ2.1すいた」(事務局:吹田市環境部環境政策室内) × 特定非営利活動法人 大阪環境カウンセラー協会

取組概要

エコバックを染色液につけている間に「プラスチックについてかんがえよう」とSDGs目標14を中心としたSDGsの学習会を行いました。



すいたクールアースと自前の2本立てチラシ



ワンウェイプラスチックとの賢い付き合い方

基本情報

代表地方公共団体	市民・事業者・行政の3者協働組織である「アジェンダ2.1すいた」(事務局:吹田市環境部環境政策室内)
代表民間団体	特定非営利活動法人 大阪環境カウンセラー協会
他の連携団体等	大阪環境ネット(障がい者スタッフ、ガイドヘルパーなど)
カテゴリ	環境保全対策/廃棄物(ゴミ)対策/障がい者福祉
事業費	5万円
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	3ヶ月

取組内容



プラスチックフリーな生活を目指して完成!



「ありがとう」の声掛けに笑顔のスタッフです

この取組で解決した課題	世界的な海洋プラスチック問題の解決に向けて、 unnecessaryなワンウェイのプラスチックの排出抑制や分別回収の徹底などの"プラスチックとの賢い付き合い方"を考えるセミナーを実施する中で、目標14に焦点をあて、プラスチックによる海洋汚染状況とその対応策について普段、台所で使っている水切りネットを持ち込んで、「環境にやさしいネットはどっち?」と主婦らしい質問が準備されていました。「きめが細かいほうが良いけれど、なかなか、水が切れないストレスもある。台所用品としては、ストッキングほどきめが細かくなくても良い」「ストッキングを代用されるのは、素晴らしい取組みである」との絶賛が飛び交う一幕もありました。家庭でできる小さな積み重ねの大切さを知り、家庭污水の関心度が、より、深まりました。
解決に向けた手法	参加された方は、高槻市内在住の普段から環境問題について強い関心を持っておられる「スーパー主婦」と呼ばれる方々とお2人の男性が参加してくださいました。多くの参加者は、環境問題に非常に詳しい方々でしたが「SDGs=環境保全」という印象を持たれていた方々が、いらっしゃいました。さらに、ポスター掲載において「障がいがあるスタッフにお手伝いしていただきます」と明記したことで違和感を持たれた方がいらっしゃったことから、知的障害者が、普通の人のように社会貢献する機会を提供している取組みであることを伝えました。そこで、「誰一人取り残さない」というコンセプトのもとに展開されているSDGsが目指すグローバル社会は「人権」が要となっているという説明に大きく頷いておられました。

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	大阪環境カウンセラー協会は、世界的な海洋プラスチック問題の解決に向けて、不必要なワンウェイのプラスチックの排出抑制や分別回収の徹底などのプラスチックとの賢い付き合い方を考えるセミナーを「すいたクールアースウィーク in 高槻クロスバル」として実施しました。
地域関係者との連携方法	「すいたクールアースウィーク(2022)」のイベントの一環としての取組みであったため、広報は「アジェンダ21 すいた」がチラシに掲載していただきました。また、OECAとしては、2025年日本国際博覧会「TEAM EXPO 2025」共創パートナーに登録しているため、テーマ実現に向けた共創チャレンジにも登録しました。
資金調達方法	「障がい者スタッフの環境保全活動を通して、社会貢献する」ことを目的として、「大阪府環境保全活動等補助金」を活用
資金調達方法の補足	運送費がかからないように、スタッフ全員が当日、必要な材料や冊子、パソコン、プロジェクターなどを小分けにして持参しました。経費を削減した分、当日スタッフ交通費謝金として、支払われました。
事業推進上の課題・工夫	市民・事業者・行政の3者協働組織である「アジェンダ21 すいた」のように、行政が発起人となって活動している協働組織がたくさんあると思います。これらの団体が活動されている取組みを全部吸い上げられるようになれば、異業種取組みの方たちとの交流も活性化され、SDGs目標17に大きく寄与すると思います。

担当者のコメント

○本件のほかにも市民・事業者・行政の3者協働組織と言われる団体との取組みを行っています。該当行政が、SDGsプラットフォームにエントリーされていませんでした。残念です。

○「障がい者の方にスタッフとして活動していただけます、の一言をポスターから外してもらいたい」とのご意見もありました。これも一つの人権に配慮した形であることは理解しています。しかし、見た目では、わからない知的障がい者の社会参加を勧めるためには、何よりも皆さんに知っていただくことが肝心だと思っています。人権配慮に対する考え方が、私たちと世間とは、大きな開きがあるのを痛感いたしました。



講義も聞いて「障がいがあっても社会貢献」

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	<p>①地方創生SDGsの視点 SDGs目標4・・・2種類の副読本の活用により、科学的知見に基づいた最新情報を提供することができ、環境カウンセラーによるわかりやすい説明。 SDGs目標8・・・交通費謝金を支払うことで、障がい者スタッフの働きがいに貢献するとともにたまねぎ染めの染色液を作るたまねぎの皮は、カット野菜の障がい者施設より買い取り「自分たちの働きが対価になることを意識します。 SDGs目標14・・・本セミナーのメインテーマは、海洋ごみ問題。人ごとのように思っていたが自分の行動に素直に置き換えられたと多くの受講者の感想でした。</p> <p>②ステークホルダーとの連携 「すいたクールアースウィーク(2022)」は、地球温暖化防止のための取組を広げる週間として、市民・事業者・行政の3者協働組織である「アジェンダ21 すいた」(事務局：吹田市環境部環境政策室内)が、主催、大阪府が後援しています。 なお、「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創チャレンジにもエントリーし、広報に努めました。 二人の小学校教諭経験のある環境カウンセラーが行う講義と知的障がい者のアシスタントにより、円滑に授業を勧めることができる</p> <p>③モデル性・波及性 「スタッフの数が少ないから」とあきらめていた活動も障がい者の方に手伝っていただくことで、人員確保に一役買っていただけます。障がい者の方も、労務費を直接現金で支払われることはないため、対価となることを学ぶことができます。</p>
----------------	--